

解答プリント「中学1年理科・第2分野」

■確認プリント

単元:9 地層の重なりと過去の様子

【評価の観点】 ㊦：思考・表現 ㊧：技能 ㊨：知識・理解

解答例	解説
<p>1 ㊧ (1) 右図</p> <p>㊨ (2) 回数：3回，理由：火山灰の層が3つあるから</p> <p>㊨ (3) あたたく浅い海の底であったと考えられる</p> <p>㊨ (4) 示準化石：その地層の堆積した年代を推定できる化石 例：ピカリア</p> <p>㊨ (5) 浅くなった</p>	<p>1 (2) 火山灰をふくむ層は3つある。したがってこの地域での火山活動は、少なくとも3回はあったと考えられる。</p> <p>(3) サンゴはあたたかく浅い海にすむ。</p> <p>(4) 示準化石の例として、ピカリア（新生代）の他にサンヨウチュウ（三葉虫）（古生代）、アンモナイト（中生代）などがある。</p> <p>(5) 泥岩の方がれきをふくむ砂岩よりも粒の大きさが小さく、粒の大きいものは海岸に近いところに、粒の小さいものは沖合に堆積する。そのことから、泥岩の層が堆積したころは沖合であったが、れきをふくむ砂岩の層が堆積したころは海岸に近いところであったと考えられる。</p>
<p>2 ㊨ (1) れき岩：粒が2mm以上の大きさの岩石 砂岩：粒が1/16~2mmの大きさの岩石 泥岩：粒が1/16mm以下の大きさの岩石</p> <p>㊨ (2) 岩石：泥岩，理由：細かい粒は沖合まで運ばれるため</p>	<p>2 (2) 粒の大きいものは海岸に近いところに、粒の小さいものは沖合に堆積する。</p>